

クモ類

## 1. 選定・評価方法の概要

クモ類 (Arachnida) は 1998 年版には取り上げられておらず、今回の改定に際して初めて対象に加わった動物群である。同類は 11 の現生のグループ (目) に分類されるが、日本に産するのは、ダニ目、ザトウムシ目、カニムシ目、サソリ目、サソリモドキ目、コヨリムシ目、ヤイトムシ目及びクモ目の 8 つの目である。このうち東京都島しょ部においては、コヨリムシ以外のすべてのグループが生息している。ダニは種数が多いが、微小であることに加え多くが研究途上であるため、トキウモウダニのような特殊な例をのぞいて種の保存あるいは生息環境の保全の対象として扱われることはほとんどなく、またサソリ及びサソリモドキは人為的に移入されたと考えられる種 [マダラサソリ (小笠原父島、母島、硫黄島) 及びアマミサソリモドキ (八丈島)] のみであるので今回の検討対象としなかった。

その結果、クモ目 (Araneae)、ヤイトムシ目 (Schizomida)、ザトウムシ目 (Opiliones) 及びカニムシ目 (Pseudoscorpiones) の 4 グループをそれぞれ評価の対象とした。ただし、伊豆諸島においては他のグループに差し迫った対象種がなかったのでクモ目のみを対象とした。

クモは世界に約 43,000 種、日本に 1,500 種以上が知られ、個体数も多く、体サイズや生態的な特性も多様である。自然環境及び人為環境下の生態系において昆虫類の「捕食者」として、また、鳥類やカエル、トカゲ等の小型脊椎動物の「食餌動物」として重要な役割を果たしている。

ヤイトムシは世界に約 180 種、日本には 4 種が知られる小さいグループで、小型の節足動物を捕食する。温暖で湿潤な地域の土壌中の間隙や洞窟の中に棲み、環境の変化に比較的敏感である。評価の対象となる 1 種 (サワダムシ) が小笠原諸島に生息する。

ザトウムシは世界に約 6,400 種、日本に約 80 種が知られ、主に森林の地表を歩き回り昆虫等の小動物またはその死体を食べる。特に小笠原諸島に生息する種は推定される生息面積が小さいので評価の対象とした。

カニムシは世界に約 3,000 種、日本に約 70 種が知られ、主に森林内の土壌中や樹皮下に生息し昆虫やダニ等を捕食する。特に小笠原諸島には環境の変化の影響を受けやすい種が生息しており評価の対象とした。

評価に当たっては、まず大正 10 年 (1921 年) の最初の文献から平成 22 年 (2010 年) までに伊豆諸島 (クモ) 及び小笠原諸島 (クモ、ヤイトムシ、ザトウムシ及びカニムシ) から記録されている当該動物群に関する全文を探索し、記録を検証した。その結果、伊豆諸島からは 233 種のクモが記録されていることが判明し、そのうち 36 種を検討対象種とした。同様に小笠原諸島からはクモ 66 種、ヤイトムシ 1 種、ザトウムシ 4 種及びカニムシ 7 種が記録されており、そのうちクモ 10 種、ヤイトムシ 1 種、ザトウムシ 3 種及びカニムシ 1 種の計 15 種を検討対象種とした。また、御蔵島、八丈島、小笠原父島など一部の島しょにおいて現地調査を実施した。セダカヌカグモ (DD) のように調査において発見され対象種となった新種もある。

クモ類に関してはこれまでに定量的な調査は行われてこなかったので、調査や評価に際して主に定性的な条件を考慮した。特に生態学的な特性 (推測される個体数、食餌の多様性、環境依存度、移動能力など)、環境条件 (生息面積、環境の多様性、植生との関係など)、捕食圧 (天敵との関係) 及び競争圧 (侵入種との競合) に注意を払った。総合的にみて、クモ類には海洋に囲まれた比較的面積の小さい島しょ群という環境特性が最も大きく影響している。特に小笠原諸島では、空中飛行 (ballooning) をしない種あるいは乾燥に弱い種が漂流物に付着して島に漂着する確率は非常に低い。そのため、上に挙げた諸条件が短時間にしかも色濃く現れると考えられる。

## 2. 選定・評価結果の概要

### <伊豆諸島>

評価の結果、NT(準絶滅危惧)が6種(ワスレナグモ、キシノウエトタテグモ、キノボリトタテグモ、ミヤケジマヌカグモ、コガネグモ、オビボソカニグモ)、DD(情報不足)が25種(ジグモ、ナルトミダニグモ、ナシジカレハグモなど)、留意種が1種(スズミグモ)、ランク外が4種(ヤマジグモ、カラカラグモ、キジロゴミグモ、ハマキフクログモ)となった。1998年版にはクモ類は取り上げられていないので、すべてが新たな評価ということになる。

全体の傾向としては、伊豆諸島においてはクモ相を形成している種のほとんどが過酷な環境条件にも耐えうる広域分布種で占められている。それらの種には、海浜などの植生が貧弱で温度や湿度の変化が激しい場所や、市街地のような緑地が少なく、餌となる昆虫が常に豊富とはいえない環境下でも十分に個体数を維持できるものが多い。また、特に大島などでは本土からの距離がそれほど遠くないので、新しい個体が常時供給されることにより個体群の隔離による種あるいは亜種の分化が起こりにくいと推測される。NTあるいはDDと判定された種の特徴は一概ではなく、数少ない固有種のほか、良好な生息環境を必要とする種、様々な原因で個体数を減らしている種、分布域が限られる種など多様である。

生息環境の現状として、農業立地が悪く農地への転用が過度でないことや、開発はまだ続いているが、過去と比較すると開発圧力が弱まっていると考えられることは、むしろ野生生物の保護の観点からは歓迎すべきであるが、コガネグモ(NT)のように原因がよく分からないまま個体数を激減させている種もあり、細かい気象条件や環境変化の影響、天敵の捕食圧、少数の種による生態的地位の独占などの生態学的要因の究明が望まれる。各島においてさらに現地調査を徹底し、それぞれの種の生息環境や個体数の変動を記録していくことを今後の研究課題として挙げておく。

### <小笠原諸島>

評価の結果、NT(準絶滅危惧)が2種(サワダムシ、エダイボグモ)、DD(情報不足)が10種(イオウジマケシグモ、オガサワラケシグモ、サダヨリケシグモ、オガサワラアシナガグモ、オガサワラゴミグモ、イオウシボグモ、ミナトザトウムシ、ムニンザトウムシ、ムニンセグロザトウムシ、テナガカニムシ)、ランク外が3種(オガサワラコモリグモ、オガサワラテナガグモ、トゲナガアシナガグモ)となった。留意種に該当するものはなかった。1998年版にはクモ類は取り上げられていないので、全てが新たな評価ということになる。

小笠原諸島のクモ相は非常に貧弱である。大陸から離れているため、飛行による拡散や漂着の可能性が伊豆諸島よりさらに低い。定着した場合は種分化が起きる可能性はむしろ大きいはずである。しかし、人為の影響が早く、かつ、強く効果を現すので、クモ相は、全体として日本本土、アメリカ合衆国、東アジア諸国、太平洋諸島などからの多様な経路によって人為的に移入された種によって占められている。そのため人為的攪乱が起こる前にたどり着いて種分化を起こしたと推定される種は比較的少ない上に、それらは天敵による捕食圧や侵入種との生態的地位の競合や競争圧にさらされているのが現状である。NTあるいはDDと評価された種の多くはそうした状況下にあると考えられる。人為移入種であっても1970年前後にはしばしば記録があったが今日では全く見られないというような例もある。総合的に見て、小笠原諸島においてクモ類は昆虫の「捕食者」という側面よりは、侵入した天敵(グリーンアノール、オオヒキガエルや一部の鳥類)の捕食圧が極めて深刻な「食餌動物」という捉え方が重要である。

なお、ランク外となった3種は個体数が多いか、移動能力が高く広域に分布しているもので絶滅の危険性が今回は高くないと判断されたものである。また、検討対象種を選定する過程で、現地調査の結果誤同定が判明したものや、過去の記録が不確かで確認を要するもの、分類学的に問題があり学名が安定していないものなど、種々の理由で評価・検討ができなかったものもあった。なかには、チチシマトタテグモのように90年前の記録が確認され学名が決定されれば、EX(絶滅)の可能性のあるような種も含まれる。

(小野展嗣)

## ジグモ

*Atypus karschii*

クモ目  
ジグモ科

伊豆諸島

DD

環境省

### 【形態・生態】

体長♀ 12～20 mm、♂ 10～15mm。♀♂とも全体に淡褐色ないし紫褐色で、♂の背甲はやや暗色。トタテグモ下目に属する原始的なクモで、8眼、3爪を有し、書肺は2対。上顎は強大で、下顎の前側面は突出する。♀の第1歩脚は太い。伊豆諸島に生息するジグモ科のクモは本種1種のみであるので同定は容易。地中に管状の住居をつくり、先端部を壁面や植物の根元の部分に付着させる。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州

### 【伊豆諸島における生息環境】

平地から山地の樹林環境に生息し、市街地の社寺林や公園、人家の庭などでも見られるが、分布は局所的である。伊豆諸島では、大島、三宅島、八丈島に生息する。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

開発には比較的強いと考えられてきたが、市街化や公園の改修工事により個体数が減少している。樹林環境を保全することが望ましい。

### 【関連文献】

千国安之輔, 2008; 小野展嗣, 2009.

(執筆: 小野展嗣)



## ワスレナグモ

*Calommata signata*

クモ目  
ワスレナグモ科

伊豆諸島

NT

環境省

NT

### 【形態・生態】

体長♀ 13～18 mm、♂ 5～8mm。♀の背甲および歩脚は黄褐色または淡褐色、腹部は紫褐色、褐色あるいは黄褐色。♂は全体に黒褐色で小さく、別種のように見える。トタテグモ下目に属する原始的なクモで、8眼、3爪を有し、書肺は2対。上顎は強大で、下顎の前側面は長く突出する。♀の第1歩脚は他の歩脚に比べて小さい。地中に縦穴式の住居をつくる。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州

### 【伊豆諸島における生息環境】

本来は開けた草原に生息するが、市街地でも公園の芝生などで見られることがある。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

開発や公園の改修工事により生息環境が著しく減少している。自然草地を保全することが望ましい。

### 【関連文献】

千国安之輔, 2008; 小野展嗣, 2009.

(執筆: 小野展嗣)



## キシノウエトタテグモ

*Latouchia typica*

クモ目  
トタテグモ科

伊豆諸島

NT

環境省

NT

### 【形態・生態】

体長♀ 12～20 mm、♂ 10～15mm。全体は黒褐色で歩脚はやや赤味を帯びる。腹部は紫褐色、褐色あるいは黒褐色。トタテグモ下目に属する原始的なクモで、8眼、3爪を有し、書肺は2対。上顎は強大で馬鋏を有し、下顎に多数の歯状突起を備える。前内疣の基部はやや接近する。地中に比較的短い管状住居をつくり、入り口に扉をつける。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州

### 【伊豆諸島における生息環境】

平地から山地の樹林環境に生息し、市街地でも社寺林や公園、人家の庭などで見られる。場所により人為的な移入の可能性も考慮する必要がある。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

開発や公園の改修などにより生息環境に影響がある。

### 【関連文献】

千国安之輔, 2008; 小野展嗣, 2009.

(執筆: 小野展嗣)



## キノボリトタテグモ

*Conothele fragaria*

クモ目

トタテグモ科

伊豆諸島

NT

環境省

NT

### 【形態・生態】

体長♀♂ 8～12 mm。背甲および歩脚は黒褐色で、腹部は暗紫褐色。トタテグモ下目に属する原始的なクモで、8眼、3爪を有し、書肺は2対。上顎は強大で馬鋏を有し、下顎および下唇に多数の歯状突起を備える。第3歩脚基部に無毛の窪みがある。前内疣の基部はやや離れ、後疣は比較的短い。木の幹の上や苔むした岩の上などに長さ2～3 cmの袋状の住居をつくり、入り口に扉をつける。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州、南西諸島

### 【伊豆諸島における生息環境】

樹林環境に生息し、市街地でも社寺林などで見られる。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

大規模開発や公園の改修、特に樹木の伐採による影響が大きい。

### 【関連文献】

千国安之輔, 2008; 小野展嗣, 2009.



(執筆: 小野展嗣)

## ナルトミダニグモ

*Ischnothyreus narutomii*

クモ目

タマゴグモ科

伊豆諸島

DD

環境省

### 【形態・生態】

体長♀♂ 1.3～1.8 mm。背甲および歩脚は黄褐色ないし暗灰褐色で、背甲の中央部は明色。腹部は黄色で、背面に背甲と同色の大きい楕円形の硬化した板がある。クモ下目、単性域類に属し、6眼、2爪、および1対の書肺を有する。非常に小さいクモで、網を張らない。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州

### 【伊豆諸島における生息環境】

海岸から低山地の樹林や草原で見られ、市街地でも見られることがある。落葉層や海岸の礫の間などで見られる。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

本種の分布は局地的で、生息地における大規模開発には留意する必要がある。特に基準産地の三宅島においては、推移を見守る必要がある。

### 【関連文献】

千国安之輔, 2008; 小野展嗣, 2009.



(執筆: 小野展嗣)

## ナシジカレハグモ

*Brommella punctosparsa*

クモ目

ハグモ科

伊豆諸島

DD

環境省

### 【形態・生態】

体長♀♂ 1.7～2.0 mm。背甲は黄褐色ないし灰褐色で、歩脚の腿節は濃灰色、そのほかの節は淡灰色ないし黄褐色。腹部は黄色ないし淡橙色で、斑紋を欠く。クモ下目、完性域類に属し、6眼、3爪で、篩板を有し、書肺は1対。小さいクモで、土壌や礫の間にボロ網を張る。

### 【分布の概要】

本州、四国、九州

### 【伊豆諸島における生息環境】

平地の樹林内の湿度の高い落葉層や岩の割れ目、洞窟などに生息し、市街地の公園などでも見つかることがある。今のところ八丈島のみから知られている。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

本種の分布は全国的に見ても局地的で、伊豆諸島では特に生息地が限られ個体数も少ないので、開発や公園の改修などによる影響が大きいと考えられる。

### 【関連文献】

千国安之輔, 2008; 小野展嗣, 2009.



(執筆: 小野展嗣)

## カチドキナミハグモ

*Cybaeus nipponicus*

クモ目  
ナミハグモ科

伊豆諸島



環境省

### 【形態・生態】

体長♀♂ 10～12mm。背甲は黒褐色ないし淡褐色で、歩脚も同様の色彩だが、淡褐色の地に黒色の環斑があるように見える。腹部は黒褐色または濃灰色で、背面に数対の白色斑がある。8眼、3爪で篩板を欠く。樹林内の地面や岩の上、崖地などに管状の住居をつくるが、表面に土の粒をつけるので、巣を見つけるのは意外に難しい。伊豆諸島では極めて稀である。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州

### 【伊豆諸島における生息環境】

平地から低山地の樹林に生息し、落葉層や地面、岩上などに見られる。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

本種は本土においては広範囲に分布しているが、伊豆諸島では局地的で、個体数も少ないので、樹林の伐採や河川改修などの際には留意する必要がある。

### 【関連文献】

新海栄一, 2006; 小野展嗣, 2009.



(執筆: 小野展嗣)

## ハタケグモ

*Hahnica corticicola*

クモ目  
ハタケグモ科

伊豆諸島



環境省

### 【形態・生態】

体長♀♂ 2.0～2.6 mm。背甲は黒褐色ないし赤褐色で、頭部は黒い。歩脚は黄褐色で腿節は暗色。腹部は褐色または濃い灰色で、背面に数個の白色山型斑がある。8眼、3爪で篩板を欠く。糸疣が横に直線上に並ぶ。地表に3 cmほどのシート状の小さい棚網を張る。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州

### 【伊豆諸島における生息環境】

本来は平地から低山地の開けた草原の地表に生息し、畑などの農地でも見られる。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

本種は本土においては広範囲に分布するが、伊豆諸島では局地的で、個体数も極めて少ない。河川敷や農地の改修には留意する必要がある。

### 【関連文献】

千国安之輔, 2008; 小野展嗣, 2009.



(執筆: 小野展嗣)

## ヤマヤチグモ

*Tegocoelotes corasides*

クモ目  
ヤチグモ科

伊豆諸島



環境省

### 【形態・生態】

体長♀♂ 10～13 mm。背甲および歩脚は黄褐色ないし淡褐色で、背甲の周縁に不明瞭な暗色斑がある。腹部は淡黒褐色または濃灰色で、背面に数対の白色斑ないし数個の矢筈状斑がある。♂は♀よりやや淡色。8眼、3爪で篩板を欠く。樹木の根元や草の上、崖地の地面の割れ目などに管状の住居のついた大型の棚網を張る。地理的変異があり、近似種も多い。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州

### 【伊豆諸島における生息環境】

低山地の樹林の樹幹や下草、崖地の地表などに生息する。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

本種は樹林や比較的良好に保たれた里山環境に生息し、市街化には極めて敏感であるので、開発行為や樹林の伐採に際して留意する必要がある。

### 【関連文献】

千国安之輔, 2008; 小野展嗣, 2009.



(執筆: 小野展嗣)

## アオグロハシリグモ

*Dolomedes raptor*

クモ目  
キシダグモ科

伊豆諸島

DD

環境省

### 【形態・生態】

体長♀ 22～26 mm、♂ 11～14 mm。背甲は濃緑褐色で、♂の背甲の両側は白い。歩脚は淡緑褐色で暗色の環斑がある。腹部は濃緑褐色で不明瞭な暗色斑がある。8眼、3爪で篩板を欠く。狩猟性で、網を張らず、昼間は岩の割れ目や樹木の根元のうろなどの中に潜み、暗くなると岩上に出て獲物を待ち伏せする。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州

### 【伊豆諸島における生息環境】

平地から山地の溪流や小川、池などの水際の暗所に生活する。大島以外では記録されていない。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

本種の生息には水辺の環境が必要であり、河川や池沼の改修には留意する必要がある。

### 【関連文献】

千国安之輔, 2008; 小野展嗣, 2009.



(執筆: 小野展嗣)

## アズマキシダグモ

*Pisaura lama*

クモ目  
キシダグモ科

伊豆諸島

DD

環境省

### 【形態・生態】

体長♀♂ 8～12 mm。背甲は基本的には黄褐色ないし淡褐色で、中央部と側部に縦に明色の条が走り、1対の暗色縦斑があるように見える。腹部も同様の地色に1対の暗色縦斑があり、中央部の縦条は幅広い。歩脚は黄褐色ないし褐色。色彩および斑紋には著しい変異があり、黄色の強いものや無斑のものなどがあるが、本属のものは本土では1種のみであるので、同定は比較的容易である。8眼、3爪で篩板を欠く。狩猟性で地表や草の間、植物上などを歩き回って獲物を捕らえる。♀は卵嚢を口器につけて保護する。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州

### 【伊豆諸島における生息環境】

低山地の良好な草原環境や樹林の林縁の草の間に生息する。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

本種の分布は局地的で、生息地においては大規模開発や市街化の際に特に留意する必要がある。

### 【関連文献】

千国安之輔, 2008; 小野展嗣, 2009.



(執筆: 小野展嗣)

## ナガズキンコモリグモ

*Trochosa aquatica*

クモ目  
コモリグモ科

伊豆諸島

DD

環境省

### 【形態・生態】

体長♀♂ 6～9 mm。背甲および歩脚は黄褐色ないし暗褐色で、側部に1対の明瞭な暗色縦斑がある。腹部は黒褐色で、心臓斑は明色、数対の明色点状斑がある。8眼、3爪で篩板を欠く。狩猟性で網を張らず、比較的湿った地表で獲物を捕らえる。岩陰などに潜んでいることが多い。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、本州、南西諸島

### 【伊豆諸島における生息環境】

平地から低山地の樹林や草原に生息する。里山環境や農地でも見られることがある。全国的に記録が少なく、伊豆諸島では利島と御蔵島から知られる。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

本種の分布は局地的で、個体数も多くないので、生息地においては大規模開発の際などに留意する必要がある。

### 【関連文献】

Tanaka, H., 1988; 小野展嗣, 2009.



(執筆: 小野展嗣)

## イソヌカゲモ

*Ceratinopsis setoensis*

クモ目  
サラゲモ科

伊豆諸島

DD

環境省

### 【形態・生態】

体長♀♂ 1.8 ~ 2.6 mm。背甲は赤褐色で周縁は黒い。歩脚は淡赤褐色で先端部ほど色が濃い。腹部は黒色。8眼、3爪、上顎の前牙堤に4歯を備える。造網性。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、九州

### 【伊豆諸島における生息環境】

海岸の満潮線付近の礫の間などで発見される。全国的に記録が少なく、伊豆諸島では八丈島のみから記録がある。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

本種の分布は局地的で、個体数も多くない。海岸地形の改変の際には留意する必要がある。

### 【関連文献】

大井良次, 1960; 小野展嗣, 2009.



(執筆: 小野展嗣)

## ヤマトウジヌカゲモ

*Tojinium japonicum*

クモ目  
サラゲモ科

伊豆諸島

DD

環境省

### 【形態・生態】

体長♀♂ 1.3 ~ 1.8 mm。背甲は黄褐色で両側は黒い。歩脚は淡黄褐色。腹部は黄褐色で、前方に膨れ、背甲の後部を覆う。♂の頭部は全体的に隆起し、こぶを欠く。8眼、3爪。網は確認されていない。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州

### 【伊豆諸島における生息環境】

平地から山地の樹林環境に生息し、落葉層の土壌を篩うと採集できる。本種は全国的に記録が少なく、伊豆諸島では三宅島のみから知られる。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林環境あるいは良好な里山環境を必要とするものと考えられる。

### 【関連文献】

Saito, H. & H. Ono, 2001; 小野展嗣, 2009.



(執筆: 小野展嗣)

## ミクラテングヌカゲモ

*Paikiniiana mikurana*

※備考 (p. 556)

クモ目  
サラゲモ科

伊豆諸島

DD

環境省

### 【形態・生態】

体長♂ 1.8 ~ 1.9 mm。♀は未知。背甲は明るい橙色で、頭部は黒い。歩脚は黄褐色。腹部は黒色で斑紋を欠く。♂は頭部の眼域に特殊な剛毛を伴った大きい突起を備える。8眼、3爪、上顎の前牙堤に大きい4歯を有する。網は確認されていない。最近新種として記載されたもので、情報は不足している。

### 【分布の概要】

伊豆諸島

### 【伊豆諸島における生息環境】

今のところ御蔵島のみから知られ、低山地の樹林の地表に生息する。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

本種の生息地は非常に限られており個体数も少ないので、樹林の伐採の際には留意する必要がある。

### 【関連文献】

Ono, H., 2010.



(執筆: 小野展嗣)

## ミヤケジマヌカグモ

*Tmeticus vulcanicus*

クモ目  
サラグモ科

伊豆諸島

NT

環境省

### 【形態・生態】

体長♀♂ 1.5 ~ 1.9 mm。背甲および歩脚は淡黄褐色。腹部は黒色で斑紋を欠く。♂の頭部に顕著なこぶや突起を欠く。8眼、3爪、上顎の前牙堤に5歯を有する。網は確認されていない。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、本州

### 【伊豆諸島における生息環境】

平地から低山地の樹林に生息する。本州にも生息するが、記録は少なく、伊豆諸島では三宅島のみから記録されている。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

本種の生息地は限られており個体数も少ないので、樹林の伐採の際には留意する必要がある。

### 【関連文献】

Saito, H. & H. Ono, 2001; 小野展嗣, 2009.

No image

(執筆: 小野展嗣)

## セダカヌカグモ

※備考 (p. 556)

*Tmeticodes gibbifer*

クモ目  
サラグモ科

伊豆諸島

DD

環境省

### 【形態・生態】

体長♀♂ 1.7 ~ 2.0 mm。背甲は黄褐色または濃灰色で周縁は明るく、眼域は黒い。歩脚は一様に黄色または灰色。腹部は白地に周縁部が黒色の個体や、全体が黒く、中央部に白色斑があるものなど変異に富む。♂頭部の眼域の後方に大きい単調なこぶがあり、眼域を覆うように前方にせり出す。額が前方に突出する。8眼、3爪、上顎の前牙堤に4歯を有する。シート状の網を張る。

### 【分布の概要】

伊豆諸島

### 【伊豆諸島における生息環境】

平地から低山地の樹林および林縁の草の間に生息する。今のところ御蔵島のみから知られる。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

本種の生息地は限られており、樹林の伐採や大規模開発の際には留意する必要がある。

### 【関連文献】

Ono, H., 2010.



(執筆: 小野展嗣)

## イズシマヒメグモ

※備考 (p. 556)

*Nesopholcomma izuense*

クモ目  
ヒメグモ科

伊豆諸島

DD

環境省

### 【形態・生態】

体長♀♂ 1.3 ~ 1.5 mm。背甲は明るい栗色ないし黒褐色で、表面に細かい鱗状の構造がある。歩脚は黄褐色ないし赤褐色。腹部は白色あるいは灰色で、斑紋を欠く個体と数対の不明瞭な暗色の円形斑のある個体がある。8眼、3爪、上顎の前牙堤に大きい2歯、後牙堤に3歯を有する。最近新種として記載されたクモで、情報は不足している。標本はシフティング法で採集され、網は確認されていない。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、本州

### 【伊豆諸島における生息環境】

平地から低山地の良好な樹林環境に生息し、林床の湿った落葉層に見られる。伊豆諸島では基準産地の御蔵島のみから知られる。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

本種の分布は局地的で、記録も少なく、生息地においては大規模開発や市街化の際、特に留意する必要がある。

### 【関連文献】

Ono, H., 2010.



(執筆: 小野展嗣)

## オダカグモ

*Meotipa argyrodiformis*

クモ目  
ヒメグモ科

伊豆諸島



環境省

### 【形態・生態】

体長♀ 3.5～5.0 mm、♂ 2.5～4.0 mm。背甲は明るい黄色ないし黄緑色で斑紋を欠く。歩脚も同様の色彩で、非常に細長い。腹部は黄色で、鱗状の白斑および黒い線状斑がある。体全体に透明感がある。8眼、3爪で篩板を欠く。ツバキなどの常緑樹の葉裏に粘性のある糸で不規則網を張る。腹部の形状や全体の色彩などから同定は比較的容易である。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州

### 【伊豆諸島における生息環境】

低山地の樹林に生息する。良好な里山環境にも見られる。伊豆諸島では三宅島のみから記録されている。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

良好な自然環境を必要とし、開発行為や樹林の伐採に際して留意する必要がある。

### 【関連文献】

千国安之輔, 2008; 小野展嗣, 2009.



(執筆: 小野展嗣)

## ハチジョウウスイロユアギグモ

*Anapistula ishikawai*

クモ目  
ユアギグモ科

伊豆諸島



環境省

### 【形態・生態】

体長♀ 0.6～0.7 mm。♂は未知。背甲および歩脚は明るい黄色。腹部はほぼ球形で、淡黄色を呈し斑紋を欠き、多数の長毛が生える。4眼、3爪で書肺が退化しており、両上顎が一部で癒合する。網は確認されていない。最近新種として記載されたもので、情報は不足しているが、特異な形態から同定は容易である。

### 【分布の概要】

伊豆諸島

### 【伊豆諸島における生息環境】

低山地の樹林の林床に生息する。本種は2001年に八丈島で採集された個体に基づいて記載されて以来記録がない。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

良好な樹林環境を必要とするものと考えられる。

### 【関連文献】

Ono, H., 2002; 小野展嗣, 2009.



(執筆: 小野展嗣)

## スズミグモ

*Cyrtophora ikomosanensis*

クモ目  
コガネグモ科

伊豆諸島



環境省

### 【形態・生態】

体長♀ 15～25 mm、♂ 3～5 mm。♀の背甲は銀白色で斑紋はない。♂の背甲は褐色ないし赤褐色。歩脚は赤褐色または黄褐色で、黒色の環斑がある。♀の腹部は紡錘形で肩が張り、白地に赤色、黒色および黄色の斑紋による複雑な模様がある。♂の腹部は卵形で斑紋はやや地味。色彩には黒っぽいものなど若干の変異がある。8眼、3爪で篩板を欠く。樹間に非常に大きい傘状のドーム網を張るが、糸に粘性はない。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州、南西諸島

### 【伊豆諸島における生息環境】

平地から低山地の樹林および林縁の草の間などに生息する。良好な里山環境や農地などでも見られることがある。全国的に見ても分布が局地的で(伊豆諸島では八丈島のみが生息)、個体数の変動も大きい。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

林縁など生息域が限定される上に、大型で多数の餌昆虫を必要とする。そのため、農業散布などによる一時的な環境変化にも敏感である。

### 【関連文献】

千国安之輔, 2008; 小野展嗣, 2009.



(執筆: 小野展嗣)

## コガネグモ

*Argiope amoena*

クモ目

コガネグモ科

伊豆諸島

NT

環境省

### 【形態・生態】

体長♀ 20～30 mm、♂ 5～7 mm。♀の背甲は黒褐色の地に銀白色の毛が密生する。腹部背面には黄色と黒色の太い横縞模様がある。♂は全体に黄褐色で別種のように見える。腹部の色彩や独特の斑紋から♀の識別は容易である。大きい円網を張る。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州、南西諸島

### 【伊豆諸島における生息環境】

平地から低山地の開けた草原、田畑の周囲、河川敷などに生息する。伊豆諸島各地から古い記録はあるが、最近 40 年間に限定すると確認されているのは新島のみである。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

昭和 30 年代までは各地で普通に見られたが、今日までに明らかに個体数が減少した。良好な草地環境が開発や農地化によって失われたこと、継続的な農薬散布により餌昆虫の量および多様性が減少したことが原因と考えられる。繁殖力が大きいので保全策によっては回復する可能性がある。

### 【関連文献】

千国安之輔, 2008; 小野展嗣, 2009.

(執筆: 小野展嗣)



## ツシマトリノフンダマシ

*Paraplectana tsushimensis*

クモ目

コガネグモ科

伊豆諸島

DD

環境省

### 【形態・生態】

体長♀ 7～10 mm、♂ 2～3 mm。♀の背甲は橙色ないし明赤褐色。腹部背面も同色の地に 6 対の黒色の点斑がある。♂は小さく別種のように見える。♀は腹部の色彩や独特の斑紋から識別は容易である。同心円状の円網を張る。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州、南西諸島

### 【伊豆諸島における生息環境】

平地から低山地の草原、林縁の下草、河川敷などに生息する。全国的にみて分布は広いが記録は極めて少なく、伊豆諸島では利島のみから知られる。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

自然草原の減少は本種のようなクモに大きな影響を与えるので、農地や河川の開発の際には留意する必要がある。

### 【関連文献】

千国安之輔, 2008; 小野展嗣, 2009.

(執筆: 小野展嗣)



## トゲグモ

*Gasteracantha kuhli*

クモ目

コガネグモ科

伊豆諸島

DD

環境省

### 【形態・生態】

体長♀ 5～8 mm、♂は 3～4 mm。♀の背甲および歩脚は黒色で、腹部背面は白色の地に黒色の大きい斑紋があるか、黒色の地に白色斑を伴う。体は全体が硬化し、♀の腹部周縁に 3 対の先端がとがった突起がある(♂では不明瞭)。東京都(本土部および島しょ部)に生息するトゲグモ類は本種 1 種のみで、かつ独特の形状から識別は容易である。大きい円網を張る。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州

### 【伊豆諸島における生息環境】

平地から低山地の林縁に見られる。広域に分布するが意外に記録は少なく、伊豆諸島では三宅島のみから知られる。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

分布は局地的で、個体数の変動をつかみにくい。樹林環境を必要とするため開発や樹林の伐採の際には留意する必要がある。

### 【関連文献】

千国安之輔, 2008; 小野展嗣, 2009.

(執筆: 小野展嗣)



## ゴマジロオニグモ

*Mangora herbeoides*

クモ目  
コガネグモ科

伊豆諸島



環境省

### 【形態・生態】

体長♀♂ 5～6 mm。背甲および歩脚は褐色ないし濁黄色で、背甲の正中部は黒色、歩脚には黒色の環斑がある。腹部は黄色で後部に4～5対の黒色点斑がある。大きさや色彩、斑紋で判別は比較的容易である。林縁の下草の間などに円網を張る。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州

### 【伊豆諸島における生息環境】

平地から低山地の樹林環境に生息する。伊豆諸島では式根島のみから知られる。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

全国的には広域分布を示すが、個体数は少なく、環境変化に対する適応能力に留意する必要がある。

### 【関連文献】

新海栄一, 2006; 小野展嗣, 2009.



(執筆: 小野展嗣)

## コアシダカグモ

*Sinopoda forcipata*

クモ目  
アシダカグモ科

伊豆諸島



環境省

### 【形態・生態】

体長♀ 18～25 mm、♂ 15～20 mm。背甲、歩脚、腹部ともに暗褐色ないし黒褐色の地に黒色や白色のわずかな斑紋を有する。8眼、2爪。昼間は物陰に隠れ夜間に獲物を狩る。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、本州、四国、九州

### 【伊豆諸島における生息環境】

平地から低山地の樹林環境に生息する。伊豆諸島では大島のみから記録されている。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

大型で、本来は良好な樹林に生息し、樹林環境の指標となるクモである。市街化や開発による乾燥化に影響される。

### 【関連文献】

千国安之輔, 2008; 小野展嗣, 2009.



(執筆: 小野展嗣)

## ヨコフカニグモ

*Xysticus transversomaculatus*

クモ目  
カニグモ科

伊豆諸島



環境省

### 【形態・生態】

体長♀ 5～8 mm、♂ 3～4 mm。♀の背甲は淡褐色で両側に黒褐色の縦条がある。腹部は褐色の地に白い線条や黒斑がある(このような色彩や斑紋は同属の種の多くに共通)。♂は、初期には♀と同様の色彩斑紋をしているが、時間とともに黒くなる。狩猟性で網を張らない。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、九州

### 【伊豆諸島における生息環境】

平地から低山地の湿原、河川敷、公園の芝生など比較的丈の低い草原に生息し、伊豆諸島では大島のみから知られている。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

良好な草原環境の指標種と考えられ、特に河川工事や市街化など環境の改変に留意する必要がある。

### 【関連文献】

新海栄一, 2006; 小野展嗣, 2009.



(執筆: 小野展嗣)

## オビボソカニグモ

*Xysticus trizonatus*

クモ目  
カニグモ科

伊豆諸島

NT

環境省

### 【形態・生態】

体長♀ 5～8 mm、♂ 4～5 mm。♀の背甲は淡褐色で両側は褐色ないし鉛色で、後部に1対の大きい黒色斑がある。腹部は褐色ないし鉛色の地に白い線条や黒斑がある。♂の背甲および歩脚は黒褐色。狩猟性で網を張らない。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州

### 【伊豆諸島における生息環境】

平地から低山地の樹林に生息し、樹木の幹や葉上、下草の上に見られる。全国的に稀産種で、伊豆諸島では大島のみから記録されている。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

良好な樹林環境に生息し、個体数も少ないので、市街化や樹林の開発などの際には留意する必要がある。

### 【関連文献】

千国安之輔, 2008; 小野展嗣, 2009.



(執筆: 小野展嗣)

## チシマカニグモ

*Xysticus kurilensis*

クモ目  
カニグモ科

伊豆諸島

DD

環境省

### 【形態・生態】

体長♀ 5～9 mm、♂ 4～6 mm。背甲は黄褐色ないし褐色で、両側に明瞭な帯状の黒色斑がある。背甲上の剛毛の先端は丸い。歩脚も同様の色彩で比較的太く、特に第1～2歩脚は強大で多数のとげを備える。腹部は褐色ないし黒褐色で後方に白色条がある。腹部の毛の先端は鈍い。♂は♀より全体に色彩が濃い。8眼、2爪で篩板を欠く。狩猟性で、網を張らず、林床の地上や下草の上で獲物を待ち伏せる。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州

### 【伊豆諸島における生息環境】

山地の樹林や草原において、地表の落葉層の上や草の上に見られる。御蔵島および八丈島に生息する。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林環境や良好に保たれた里山環境に生息し、開発行為や樹木の伐採に際して留意する必要がある。また、生息地が局所的で、個体数も少ない。

### 【関連文献】

千国安之輔, 2008; 小野展嗣, 2009.



(執筆: 小野展嗣)

## アマギエビスグモ

*Lysiteles coronatus*

クモ目  
カニグモ科

伊豆諸島

DD

環境省

### 【形態・生態】

体長♀ 2.5～4.5 mm、♂ 2.5～3.5 mm。♀の背甲は黄色ないし淡黄褐色で、両側に明瞭な帯状の黒色縦斑がある。歩脚は黄色ないし黄緑色で、多数のとげを備える。腹部は黄白色で多数の白点や褐色斑からなる明瞭な斑紋を有する。♂は♀より細身に色彩が濃く、全体に光沢がある。8眼、2爪で篩板を欠く。狩猟性で、網を張らず、樹木の高所の枝の上、葉の上、下草の葉の上、林床の地表などを広範囲に歩き回り、獲物を狩る。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州

### 【伊豆諸島における生息環境】

低山地の樹林の樹上や林縁の下草の上に生息し、里山や別荘地などでも見られることがある。伊豆諸島では分布域が限られ、今のところ神津島のみから知られる。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹林環境や比較的良好な里山環境を必要とすることから、樹林の伐採や大規模開発の際には留意する必要がある。

### 【関連文献】

千国安之輔, 2008; 小野展嗣, 2009.



(執筆: 小野展嗣)

## コキハダカニグモ

*Takachihoa trunciformis*

クモ目  
カニグモ科

伊豆諸島

DD

環境省

### 【形態・生態】

体長♀ 2.5 ~ 4.5 mm、♂ 2.0 ~ 3.0 mm。♀の背甲は淡褐色ないし黄褐色で、頭部は暗色で、胸部の両側に短い黒色縦斑がある。歩脚は黒褐色で、多数のとげを備える。腹部はおむすび型で幅広く、淡褐色で暗色の不明瞭な斑紋を有する。♂は♀より細身で色彩が明るく、背甲はやや光沢がある。8眼、2爪で篩板を欠く。網を張らず、狩猟性で、低木や下草の葉上を歩き回り獲物を狩る。本邦では1属1種で同定は比較的容易だが、幼虫はキハダカニグモ属やカニグモ属と混同されることがある。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、九州(南部)、南西諸島

### 【伊豆諸島における生息環境】

平地から低山地の樹林および林縁の草の間に生息する。伊豆諸島では八丈島のみから記録され、個体数も少ない。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

良好な自然環境を必要とし、開発行為に際して留意する必要がある。

### 【関連文献】

千国安之輔, 2008; 小野展嗣, 2009.

(執筆者: 小野展嗣)



## イツツグモ

*Anyphaena pugil*

クモ目  
イツツグモ科

伊豆諸島

DD

環境省

### 【形態・生態】

体長♀♂ 5 ~ 7 mm。背甲は黄色ないし灰褐色で、側部は黒褐色。歩脚は褐色で腿節の気部は明るい。腹部は黄褐色ないし褐色で、中央前部に暗色の縦条および、後方に対になった斑紋がある。8眼、2爪で篩板を欠く。網を張らず、狩猟性で、葉の間に糸で袋状の住居をつくって潜み、樹木の幹や枝葉の上、下草の上を歩き回る。

### 【分布の概要】

伊豆諸島、北海道、本州、四国、九州

### 【伊豆諸島における生息環境】

主に山地の針葉樹林に生息し、良好な里山環境でも見られる。本種は伊豆諸島では三宅島のみから記録され、個体数も少ない。

### 【伊豆諸島における生存に対する脅威や保全上の留意点】

樹木の伐採に際しては留意する必要がある。

### 【関連文献】

千国安之輔, 2008; 小野展嗣, 2009.

(執筆者: 小野展嗣)



【種名・学名などの準拠文献】

和名、学名、配列は、主に小野 (2009) を参考にして、評価者の見解に従った。

小野展嗣, 2009. 日本産クモ類. 東海大学出版会. xvi + 738 pp.

【備考】 レッドリスト改定時における評価の根拠など補足情報

和名	備考
ミクラテングヌカグモ	今回の改定調査で新たに記載された新種 (Ono, 2010)。
セダカヌカグモ	
イズシマヒメグモ	

【留意種とした理由】

和名	留意種とした理由
スズミグモ	本種は、林縁など限られた環境条件を必要とするため生息域が限定される上、大型で多数の餌昆虫を必要とし、農薬散布等で食餌の量が減少するなど環境の一時的な変化によっても容易に絶滅する恐れがあるため、留意が必要である。

【関連文献】

千国安之輔, 2008. 写真日本クモ類大図鑑 (改訂版). 偕成社. 309 pp.

大井良次, 1960. 京大瀬戸臨海実験所附近に産する海浜性の蜘蛛について. *Acta Arachnologica*, 17(1): 3-8, pl. 1.

Ono, H., 2002. First record of the genus *Anapistula* (Araneae, Symphytognathidae) from Asia. *Bulletin of the National Science Museum Series A (Zoology)*, 28(2): 61-64.

小野展嗣 (編著), 2009. 日本産クモ類. 東海大学出版会. xvi + 738 pp.

Ono, H., 2010. Spiders from Mikurajima Island, Tokyo, with descriptions of new genera and species of the families Linyphiidae and Theridiidae (Arachnida, Araneae). *Bulletin of the National Museum of Nature and Science Series A (Zoology)*, 36(2): 51-63.

Saito, H. & Ono, H., 2001. New genera and species of the spider family Linyphiidae (Arachnida, Araneae) from Japan. *Bulletin of the National Science Museum Series A (Zoology)*, 27(1): 1-59.

新海栄一, 2006. ネイチャーガイド日本のクモ. 文一総合出版. 336 pp.

Tanaka, H., 1988. Lycosid spiders of Japan II. The genus *Trochosa* C. L. Koch. *Acta Arachnologica*, 36(2): 93-113.